【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	嬉野市立吉田小学校

1　前年度 評価結果の概要	・多くの項目でＡ評価となったが、「児童が熱中して学び合う授業づくり」「望ましい生活習慣の形成」の２項目がＢ評価となった。課題を洗い出し、今年度の取組に繋げていく必要がある。 ・児童の表現力が高まっているという評価がある一方で、「子どもが自分の考えを発表することができるようにしたり、対話活動を設定したりして、伝え合う活動の活性化に努めている。」と答えた職員の割合が低くなった。今年度取り組んでいく必要である。 ・地域と連携した教育実践では、「吉田学」での学びを家庭や地域に向けて発信しながら進めることができた。今年度は、「吉田おうえんたい」の方と具体的な活動内容について話合いをして、地域連携を進めていきたい。 ・働き方改革については、全職員が好感触をもっている。今年度も行事の精選や業務改善に向けた実践を交流する取組を行いながら、働き方改革についての意識改革を更に進めていきたい。
2　学校教育目標	かしこく　やさしく　たくましい　吉田っ子の育成　～地域と共に、９ヵ年の学びのなかで～
3　本年度の重点目標	①確かな学力の育成「かしこさ」　②豊かな心の育成「やさしさ」　③たくましい心身の育成「たくましさ」 ④小中一貫教育並びに地域と共にある学校づくり　⑤働き方改革の推進

4　重点取組内容・成果指標　／　中間評価　／　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童が熱中して学び合う授業づくり	○単元構成を工夫して、子どもが主体となって活動する時間を60%以上にする ○吉田メソッドを活用し、伝え合い活動を工夫し、充実させ、自信をもって「できた」と回答した児童を50%以上にする。	・単元ごとに振り返りをする時間を設け、1回以上は文章で表現する振り返りを必ず確保する。 ・「伝え合い名人カード」を掲示して、話し方を意識させる。 ・「友だちタイム」カードを手元に持たせ、いつでも活用できる環境をつくる。 ・授業研(模擬授業を含む)を通して、話し合いの進め方や仕方、活発にするためのオリジナルの工夫を共有し、それぞれの授業に活用するようにする。	B	・「単元構成を工夫して、子どもが主体となって活動する時間を60%以上にする」に肯定的な回答が92%。 ・単元ごとの振り返りを文章で表現させることは、100%達成。 ・「友だちタイム」カードは全学年活用できている。 ・伝え合い活動を自信をもって「できた」と回答した児童は85%。「よくできた」は41%	A	・「単元構成を工夫して、子どもが主体となって活動する時間を60%以上にする」に肯定的な回答が100%。 ・「友だちタイム」を設定し、伝え合う活動の活性化に努めていると答えた職員が100%で「よくあてはまる」が43%から57%に増えた。 ・伝え合い活動を自信をもって「できた」と回答した児童は85%。「よくできた」は42%	A	・授業改善や「友だちタイム」の設定、「伝え合い名人カード」の提示等、児童のやる気や主体性を大切にしている取組である。 ・高く評価する。「伝え合う」力は、大人になってからも大事なツールとなるので、今後も伸ばしていってほしい。 ・同じメンバーで競争心が少ないのではないかと考えられるが、学力はしっかりとつけていって欲しい。	研究主任 かしこい子PJ
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「児童の豊かな心を育むために、道徳科の授業、人権学習に計画的に取り組んでいる」と回答した教師90%	・年間計画に基づき、道徳科の授業実施率100%にする。 ・12月に人権学習月間を設定し、全クラスで授業実践を行う。 ・教育相談週間に合わせて、構成的グループエンカウンターを実践する「エンカタイム」を設定する。	A	・「児童の豊かな心を育むために、道徳科の授業、人権学習に計画的に取り組んでいる」と回答した教師は92．8だった%。 ・教育相談週間には、児童一人ひとりと面談を行い、相談があったことについては解決に向けて対応を行った。 ・エンカタイムには、担任がクラスの実態に応じた構成的グループエンカウンターを実施することができた。	A	・年間計画に基づき、道徳科も授業実施率100%を達成できた。 ・12月に人権学習慣を設定して、各クラスで人権に関する授業実践を行うことができた。人権集会には外部の講師を招き講話をしてもらった。 ・教育相談週間に合わせて、全学年「エンカタイム」で構成的グループエンカウンターの活動を実践することができた。	A	・道徳科の授業や人権学習等を計画的に取り組んだことで、人権意識が高まったと思う。今後も、心豊かな心と強い心を育んで欲しい。	道徳科主任 人権教育担当 やさしい子PJ
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みを実践している。」と回答した保護者80%	・学校便りや学級通信、学校HP等を通じて、いじめの未然防止に向けた授業実践を発信していく。 ・定期的に心のアンケートを行い、いじめの早期発見、早期対応を行う。 ・いじめが発生した場合は、家庭と連携しながらいじめ解消に向けた取り組みを推進する。	A	・「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みを実践している。」と回答した保護者は96．6%だった。 ・定期的に「ころのアンケート」を実施し、いじめの早期発見・早期対応を行っている。 ・いじめを認知したときには、管理職に相談し、家庭と連携しながら、いじめ解消に向けた取り組みを推進している。	A	・「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取り組みを実践している。」と回答した保護者は92.2%と前回の中間評価より下がっているが、目標の80%には到達している。 ・児童の気になる言動について日頃から職員間で情報共有をおこなったり、定期的にアンケートをおこなったりすることで、いじめの早期発見・早期対応に努め、組織的に対応することができた。	A	・保護者の方の学校評価アンケートでは、「よくあてはまる」が増えた一方、「あまりあてはまらない」が若干増えている。再確認をして欲しい。	教育相談担当 やさしい子PJ
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・日記を書かせるなど、児童が自分の思いを表現できる機会を設け、担任から肯定的なコメントを返す。 ・キャリアパスポートを活用して児童に自分の成長を実感させる。 ・学校行事や係活動に向けて自分の目標をもたせ、事後に振り返りをさせることで成功体験を積み重ねていく。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童92．6%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童91．2%だった。 ・今後もキャリアパスポートを用いながら自己を振り返らせる機会を設けていく。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童94.1%だった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童94%だった。 ・学校行事後の丁寧な振り返りや担任の声掛けが、成果に結びついている。	A	・自他のよさを認め、自己肯定感を育むPBISの実践が効果的だったと思う。 ・子どもの多様性を尊重するすることは大事だが、一人一人の多様性に応じた対応をとることは大変だと思う。今後も頑張って欲しい。	たくましい子PJ
	○思いやりの心を育む心の教育の推進	○友達のよいところを見つけることができたと回答した児童80%以上	・ありがとうポストを設置し、友だちのよいところを見つけ、ありがとうの手紙を書く取組を行う。ありがとうの手紙を放送で紹介し、ありがとうの輪を広げる。	A	・児童アンケート「友だちのよいところを見つけることができた」と回答した児童は94.1%。 ・ありがとうの手紙を書く活動があることで、友だちの良さを見つける児童が増えたため、継続して「ありがとうポスト」の活動を行っていく。	A	・児童アンケート「友だちのよいところを見つけることができた」と回答した児童が、98.6%になった。ほとんどの児童が友だちのよさを見つけることができた。 ・毎週月曜日に「サンキュータイム」を実施したことで、友だちのよさを見つける活動を全校一丸となって取り組めた。	A	・肯定的な声かけで自信をつけたり、やさしい心が育ったりしていると思う。「ありがとうポスト」等の取組がよかった。 ・高校のことを考えると、もまれたり世間を知ったりする必要があるのではないか。	やさしい子PJ
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で100分以上の児童70%以上 ○自ら設定した「遊び名人」に達成したと回答した児童80%以上	・体育的行事やプレイタイム(縦割り遊び)、体育委員会の取組等で体を動かす楽しさを実感させる。 ・児童が主体的に取り組めるように、目指す「遊び名人像」を児童自らが設定し、実践させる。	B	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で100分以上の児童は76.5%だった。 ・「自分で決めた遊び名人に達成した」という項目に肯定的回答をした児童が83.9%だった。 ・11月から委員会活動との関連を図りながら「遊び名人チェックシート」を配付する。	B	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で100分以上の児童は88.1%だった。 ・「自分で決めた遊び名人に達成した」という項目に肯定的回答をした児童が82.1%だった。 ・委員会主体で「遊び名人チェックシート」に1回取り組んだ。取り組み後、委員会発表の場	B	・児童の人数が少ないので授業以外での運動となるとなかなか厳しいものがあると思う。意図的に集まって運動をする場をつくる必要があると思う。	たくましい子PJ
	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝・早起き・しっかり朝ご飯」を実践していると回答した児童90%以上	・年2回「早寝・早起き・朝ご飯チェックシート」を活用して、自分の生活を入り返らせる。 ・全クラスで食育の授業を実践する。	B	・早寝・早起きができている児童は85.3%だった。 ・朝ごはんを毎日食べできている児童は91.2%だった。 ・全クラスで食育の授業を実践し、望ましい生活習慣を意識付けた。	A	・早寝・早起きができている児童は91.0%だった。 ・朝ごはんを毎日食べできている児童は97%だった。 ・全クラスで食育の授業を実施したことで、児童に望ましい生活習慣を意識させることができた。	A	・前回より数値が上がったのは、保護者の方や子ども達への理解を深めた取組があったからだと思う。	特別活動主任 食育担当 たくましい子PJ
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○月の時間外在校時間が45時間を超えない職員の割合90%	・学校行事の内容の精選を図り、準備等にかかる時間の縮減を目指す。 ・ICT機器を活用して、事務的な作業の効率化を図るための職員研修を実施する。 ・定時退勤日を設定する。 ・業務記録表をもとに、自分の時間外在校時間と放課後の時間の使い方を振り返らせ、業務の効率化を図る。	C	・月の時間外在校時間が45時間を超えない職員の割合78.6%と目標値より大きく下回った。 ・定時退勤日の設定や毎月の業務記録票の確認等を行ってきたが、今後は、計画的かつ効果的な業務遂行について話合いを進めていきたい。	A	・月の時間外在校時間が45時間を超えない職員の割合93.3%と目標値より大きく上回った。 ・職員一人一人の意識改革と工夫で、目標を達成することができた。また、お互いに声をかける等、組織として取り組んだことがよかった。	A	・中間評価から達成度が大きく向上している。教職員一人一人の意識の向上と「定時退勤日」の設定等、組織的な取組がよかったと思う。	教頭
	○自己の働き方に対する意識改革の実現	○「自分の働き方に対する意識改革が実現できた。」と回答した職員100%	・自分の業務内容やタイムマネジメントに視点を当て、ワークライフバランスを実現するための自己目標を設定する。 ・10月と1月に振り返りを行い、意識改革を図る。	B	・「自分の働き方に対する意識改革が実現できた。」と回答した職員92.9%と目標値より下回った。 自己目標を設定し、中間評価を行ったが、職員全員の意識改革は図れなかった。反省を基に今後の取組について話し合い、実践していきたい。	A	・「自分の働き方に対する意識改革が実現できた。」と回答した職員100%と目標値を達成した。 ・働き方改革の自己目標を基に、業務の優先順位を考えたり、ICT機器を効果的に活用したりと意識改革を図ることができた。	A	・高く評価する。教職員に心のゆとりができることは子ども達にとってもよいことだと思う。	教頭
●特別支援教育の充実	○個のニーズに応じた特別支援教育の推進	○「個のニーズに応じた特別支援教育の推進ができた」と回答した職員90%	・児童と共に学習過程や環境整備の作成を行う。 ・できたことを称賛し、自己肯定感を高める。	A	・「個のニーズに応じた特別支援教育の推進ができた」と回答した職員100%だった。全職員で児童の良いところを見つけて具体的にほめるように心がけ、自己肯定感を高めるようにした。	A	・「個のニーズに応じた特別支援教育の推進ができた」と回答した職員は、前回に引き続き100%だった。 ・子どもを知る会を年5回、ケース会議を全学年適宜行うなど、個のニーズに応じた特別支援教育を推進できた。	A	・支援が必要な児童に対してのサポートを引き続きお願いしたい。	特別支援教育CO たくましい子PJ

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○小中一貫教育の推進	○9カ年間の学びの連続を意識した中学校との一貫教育の充実	○「小中連携を意識した取り組みを積極的に行った。」と回答した教師90%	・「4・3・2ブロック制」による取り組みを計画的に推進する。 ・小中合同校内研究を通して、学習指導における相互理解を深め、指導方法の改善を図る。	A	・年3回のブロック集会で、全学年が実施できた。 ・小中合同校内研では、吉田メソッドや授業づくりについて活発に意見交流ができた。 「小中連携を意識した取り組みができた」肯定的な回答をした職員は93%であった。	B	・11月と12月のブロック集会では、学習したことを各学年意欲的に発表することができた。 ・小中合同研を通しての意見交流は積極的にできたが、各学年の授業研交流があまりできなかった。 ・「小中連携を意識した取り組みができた」肯定的な回答をした職員は78.6%であり、第1回目調査より14.5%下がった。	B	・中1ギャップもなく、スムーズな流れができている。 ・相互の乗り入れ授業等、取組が困難な内容は見直す必要があるのではないか。	教頭 教務主任 研究主任
○地域とともにある学校づくり	○郷土愛を育む「吉田学」の推進	○「吉田学」での学びを各学年2回以上取り入れ、家庭や地域に向けて積極的に発信したと回答した教師90%	・「吉田おうえんたい」との連携を深め、一体感のある協働的活動を促進する。 ・SDGsの視点でつなぐ生活科及び総合的な学習の時間を充実させる。	B	・吉田おうえんたいの活動を推進し、焼き物・絵付け体験や昔遊びなど計画的に実施できた。 ・すべての学年が年2回以上「吉田学」の内容を学び、学級通信を通して積極的に家庭に発信できた。 ・中間評価を受け、各学年SDGsと関連させた授業の充実にについては不十分であった。	A	・吉田おうえんたいとの活動を推進し、焼き物・絵付け体験や昔遊びなど計画的に実施できた。 ・すべての学年が年2回以上「吉田学」の内容を学び、学級通信を通して積極的に家庭に発信できた。 ・中間評価を受け、各学年SDGsと関連させた授業の改善が進められた。	A	・地域の方の協力で、地域のよさを知る学びができている。「吉田が好き」と答えた児童が98%という結果は取組の成果だ。 ・コミュニティでは、来年度に「吉田地区自然観察マップ」を作成する。活用して欲しい。	教頭 教務主任

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・